

東京工業大学の環境報告書に関する外部監査報告

石川県立大学 教授 高月 紘

総合的監査

- 1 東京工業大学環境報告書（2008年度版）は、環境省の示す環境報告書ガイドラインに添って全体的によくまとまっていると評価する。
- 2 また、環境保全技術の開発研究や環境マインドを持った人材育成など研究・教育面で環境活動の社会貢献を強調した内容となっているのは、東京工業大学らしい環境報告書と言えよう。
- 3 環境報告書を作成し、3年目を経過するにあたり、今一度環境報告書の作成目的・意義の明確化と活用方法の検討が必要と思われる。具体的には、環境報告書を主として誰に発信するのか、報告書作成の過程における学生を含めたステークホルダーの関与のあり方などの検討が求められる。
- 4 環境報告書の基礎となる東京工業大学としての環境計画についての学内コンセンサスを得るためのさらなる努力を期待したい。

個別的監査

- 1 環境報告書であり、ページ数も限られているので、1 2の東京工業大学の概要あたりはもう少し簡略化してもよいのではないか。
- 2 環境目標についてはもう少し大きく取り上げるなど、より具体的に提示する必要があると思われる。
- 3 取組み体制については、環境配慮への取組みに何故、安全管理部門が担当するのか、また、環境保全室の役割などの説明が必要と思われる。
- 4 実験廃液処理、各種化学分析、廃棄物処理のマニフェスト確認等の実務部門の活動が、大学の責任において、しっかりと行われていることを強調した方がよいと思われる。合せて、環境・安全管理体制の中で各セクターの活動内容についての情報の共有と連携強化を望みたい。
- 5 環境活動紹介のところで、教員、学生らの顔写真を入れる、学生や教職員にとって興味ある身近なトピックス記事を組むなど、読む側にインパクトを与える環境報告書編集が望まれる。そのためには、編集委員会に学生や生協などからの委員を入れるなどの編集体制の充実が必要と思われる。